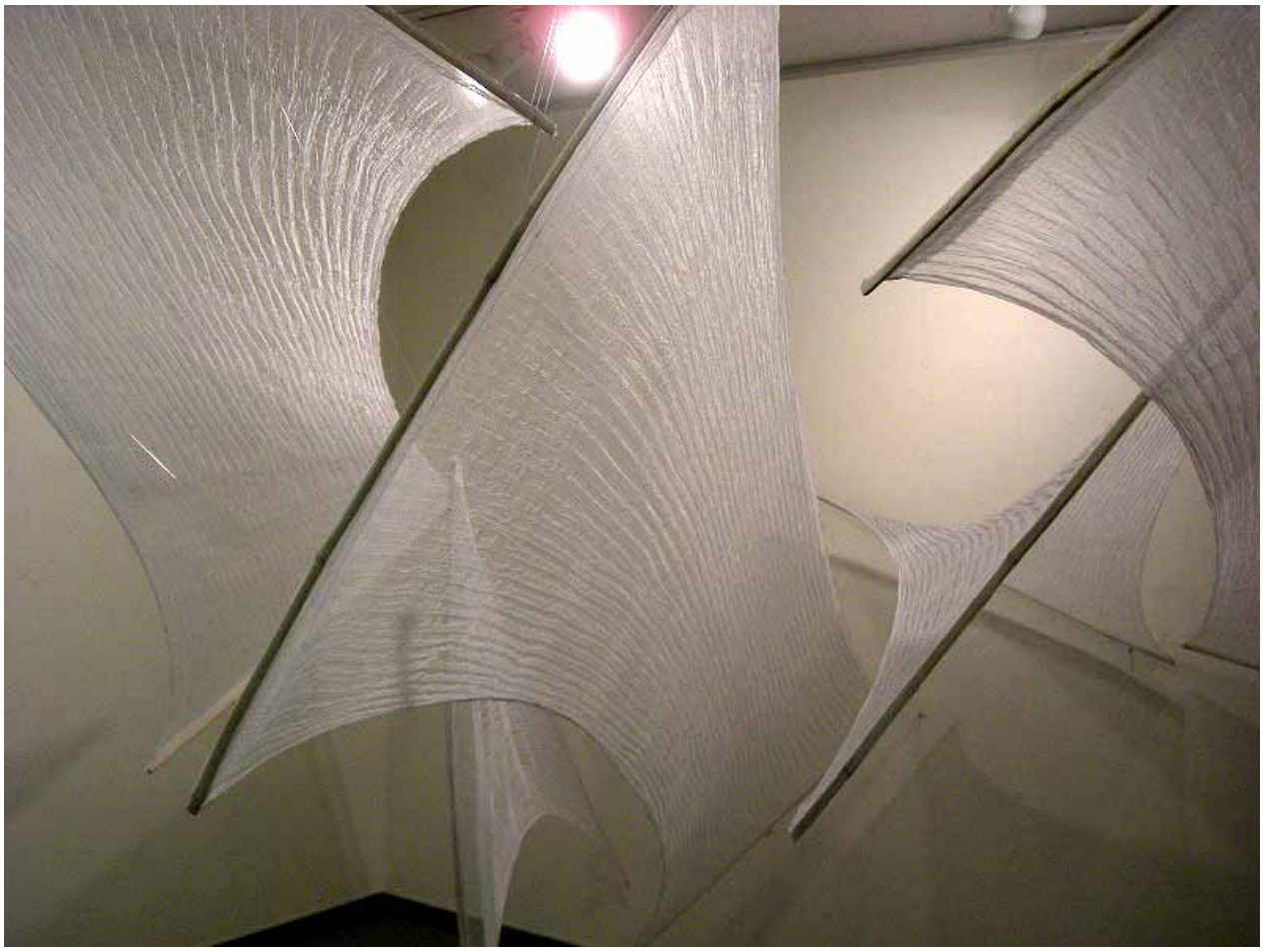
JIA news kinki

翔

syo

no.105/2008

冬号



The Japan Institute of Architects Kinki Chapter　社団法人 日本建築家協会近畿支部

表紙写真：「無題」　益田　治子

□表紙解説－「無題」

絞染における魅力の一つは、絞りを施すことで裂に出来るしわといえるであろう。このしわを絞染では「しぼ」と呼んでいる。しぼからは機械では表せない手仕事の温かみが感じられる。更にしぼは、元々平面であった裂に立体感と動きを与えてくれるのである。

絞染のしぼが持つ独特の面白さと可能性を追求するために、あえて染色せず、絞るという行為のみによる制作を試みている。

CONTENTS

特集

「新たな年度に向けて」　吉羽逸郎　3

連載

「和のこころ」　窪田謙二　5

「都市点描」　宮本雅之　7

「住宅部会通信2007」　瀧川嘉彦　9

情報

新入会員紹介

「編集後記」　小池啓夫　10

新たな年度に向けて

吉羽逸郎
（JIA近畿支部支部長）
（アイ・エフ建築設計研究所）

2008年も、早3月となり、４月の総会にむけての準備に入る時期となりました。昨年来、建築界も社会も暗い話題ばかりでした。その中で明るい話題は、我近畿支部の前支部長の出江寛さんが、会長選挙の結果、全国の会員の支持を得て次期会長に当選されたことがあります。初代の丹下会長以後無選挙で引き継がれてきた会長をマニフェストにより会員の意思で選んだ意義は大変大きな出来事であります。選挙の運動を通して会員の意識の向上とＪＩＡの理解が進んだ事は大きな成果でありました。そして会員の要望を少しでも会の運営や対外的な活動に反映させたいものです。私は選挙の応援活動を通じて感じたことは会員の多くが、出江さんの言う「花から実へ」の活動を期待していることです。建築家は設計を通じて社会や文化や環境に貢献していますが、法律が複雑かつ膨大に成ると共にわれわれの事務量も著しく増加してきました。しかしそれに見合う報酬は増えることはなく、又社会的地位も向上していません。このように、われわれの業務環境は改善どころか悪化しています。もちろん花としての活動は今まで以上に必要となりましょう。近畿支部としては皆さんと一致結束して出江次期会長を支援していこうではありませんか。
ところで姉歯事件に始まった偽装事件は耐震偽装から食品業界にもひろがりました。どれも倫理観の欠如の結果であります。またつい最近中国製冷凍餃子の食中毒事件がありました。今の日本人手間のかからない安易さへの志向の結果が国民のショックを引き起こしましたが、安易さ・手軽さは今や、さまざまな分野で価値の指標となり日本の文化に深く浸透しました。食文化では電子レンジと冷凍食品、知識情報ではマニュアル本やインターネット、健康ではサプリメント、住宅ではプレファブや手仕事の減少や乾式工法など素材の質感の減少となりました。時間も含めた費用対効果はあがったかも知れませんが、いい意味での表裏や奥行きがなくなり薄っぺらになりました。ここで建築家は環境や文化をつくる立場から便利さや安易さに流されることなく、創作活動や社会活動を通じてしっかりと本物を創ることで貢献したいものです。

今ＪＩＡでは「登録建築家」のオープン化に向けての検討が続けられています。建築家の職能は建築士とは違い、技術ではなく建築や環境の設計を通じて環境や文化を永続するものとして創り守り育てるために設計を統括する職能であります。ソーシャルデザイナーでありソーシャルプランナーであります。オープン化の話は、この職能の確立のために建築家個人の資質を判断すべきであり所属する組織には本来関係ないという考えを基本としています。運営も独立することで社会や国民

からの信頼と支持が得られます。統括という立場は今回の建築士法の改正では達成できませんでしたが、今後建築士会との連携を深めて設計専攻建築士との調整も必要になってくると考えられます。現在、近畿支部での登録建築家は368人で会員の46％です。「登録建築家」になってどのようなメリットがあるのかと言われますが、建築家のため長期的な大きな目標に目を向けていただき、まだ登録されていない会員は主旨を理解され早急に登録いただきたいと思います。

私たち支部の役員にとって辛いことは、一生懸命にさまざまなイベントを企画しても参加は少なく、アンケートへの回答も少なく会員の求めていることがつかめないことであります。会員の顔の見える組織や運営を目指して努力していますが、参加や反応が少なくてはなかなか顔が見えてこない状況が続いています。顔が見え活動が活性化するためにはあまり多人数でなく適当なまとまりがいいのではないかと考えます。近畿支部では大阪だけが地域会がありませんでしたが、8ブロック程度の地域部会として設立しようと検討中です。　また原則居住地での参加が建築家と地域社会との緊密性をたかめ建築家の認知度を高めるにも適していると思います。４月の総会で報告後設立に向けて動く予定です。多くの会員の積極的な参加と活動を期待します。ＪＩＡの活性化のためには、このような会員の意識向上と共に会員増強特に将来を担う若い建築家の入会促進と活動参加が必要です。新人賞を設けたことで少しずつ若い会員がふえていますが核となる中堅若手を中心にさらなる努力を続け未来へつながるＪＩＡにしたいと思います。ＪＩＡの運営は一部の役員によるのではなく全会員の積極的な参加によって成り立つことを一人一人考えていただくことを願っています。

最後に支部活動費についてのご報告とお願いをさせていただきます。FAX版会報誌「翔」2008年3月1日号でもご報告いたしましたように、2007年度に支部財政基盤の強化を目的とし導入しました「支部活動費」は、皆様の多大なるご協力により総額5,562,000円（2/29現在）のご入金を頂きました。これにより2007年度の支部決算の僅かの黒字化と、地域会への還付（納付者数に乗じて一人当たり6,000円）を実施することができました。誠に有難うございました。また現在2008年度の近畿支部予算計画を行っております。平行して本部においても会費値上げの検討は進められておりますが2008年度の会費徴収には間に合わなく、近畿支部の予算計画につきましては昨年同様厳しいものが予想され、本年度も「支部活動費」の拠出をお願いしなければならない状況であります。何卒ご理解いただき「支部活動費」の2008年度の導入についてご協力くださいますようお願い申し上げます。
（2008年度の支部活動費導入につきましては、4月23日開催予定の支部通常総会にて正式報告の予定でございます）

和と洋、木工からの考察

窪田謙二
（木工作家）

私は主に日本産の広葉樹を使って家具を作っている。
山桜、楢、欅、栃、樺、タモ、栗、カエデ、楠、など作るものによって使い分けている。仕上げは拭き漆が多い。オイル仕上げもおこなう。
現代の暮しは急速な洋風化が進んでいる。机、椅子の生活が当たり前になっている。
私自身も和家具を制作する機会は少ない。座卓でもフローリングの部屋に置くもののオーダーがほとんどである。畳のない家も増えていると聞く。最近、車箪笥を制作したがクライアントは和家具好きのマニアと言ってもいい方だった。
いままでの仕事を通してみると、やはりダイニングテーブルとダイニングチェアを一番たくさん作ってきた。もともと日本には無かったものである。では和の要素が無いかと言えば多いにあると言える。もともと日本の木工技術は世界に誇れるすばらしいものである。江戸中期から明治、大正と名人、名作が輩出した。その伝統の流れの中に我々、現代の木工家も連なっている。その過程でさまざまな道具や機械が生まれてきた。鉋だけでも何十種類もある。必要に迫られて発達、進化をしてきたはずだ。ほとんどの木工家が洋家具を作る場合でも、鉋も鑿も鋸も日本式のものを使っている。西洋鉋は刃の出入れはネジ式でしかも押して使う。
私が学生のとき、アメリカ人の留学生が日本の鉋を押して使うのをみてびっくりしたことがある。洋鉋の台は鉄製が多いが、日本の鉋台は樫の木だ。木だと当然使っているあいだに磨耗するし湿度によって変形する。そのため台直し鉋(硬い樫を削るために刃が台に対して直角に仕込んである。）と下端定規で時々、直さねばならない。刃の出し入れも木槌で叩いて、髪の毛一本分くらいの幅で加減する。木工初心者がもっとも苦労するのが鉋の刃研ぎと台直しだ。かって教えた木工の専門学校の学生のなかには５時間も６時間もかけて研いだ者もいた。それでもまっすぐ研げていなかったが。刃といっしょに指を研いだ学生もいた。日本の鋸は引くときに切れるが、洋式は押すときに切れる。小刀も逆の使い方だ。
木工機械でも角鑿(四角いホゾ穴をあける機械。四角の断面の刃物の中が空洞になっており、中でドリルの刃が回って、穴をあける。大変便利な機械である。）は海外では日本ほどポピュラーではない

栃一枚板ダイニングテーブル
オイル仕上げ

ヤマザクラ　ダイニングチェア
オイル仕上げ

アームチェア　座板　栃　背、脚
ヤマザクラ　拭漆仕上げ

ラウンドテーブル　栃　拭漆仕上げ

ようだ。日本独自の道具や機械を使いこなして洋家具作りをしているといえる。
また木の使い方にも日本人特有の感覚がある。ひとつは無地を尊ぶ。一枚板を珍重する。杢目を重視する。西洋ではあまりこだわりがないようだ。我家のデンマーク製の木製サッシなど節だらけのパイン材だ。大工さんがあきれていた。
アメリカ在住の木工家の友人が一枚板の材が無いとぼやいていた。あちらでは、幅広であろうが杢がよかろうが規格の幅の挽材にしてしまうそうだ。幅広の板が欲しければ矧ぎ合わせればいいと考えるようだ。ある意味合理的だが私には考えられない。
たとえば一枚板でテーブルを作るとしよう。材の幅は狭くても７０ｃｍ,広ければ１１０ｃｍほどにもなる。当然、樹齢も１５０年から３００年をかぞえる。その歳月、どこかの山中で毎年毎年花を咲かせ実をつけ巨樹となったはずだ。作業台の上に乗せられた板を見て、樹として聳え立っていた姿を想像すると、神を感じるときすらある。日本人が持っていた仏教以前の素朴な自然崇拝は今も我々のＤＮＡに組み込まれている。しかし木工家としては、木に惚れないといけないが惚れすぎてはいけない。ときにはクールに接しないとだめだ。何事にもバランスが大事である。
私の作品は椅子やベンチでも和風であるとよく言われる。ひとつには拭き漆からうける印象かもしれない。大学で漆を習っていた頃はあまり漆は好きではなかった。卒業後、木工を続けるうちに木と漆の相性のよさに気づかされた。木目の美しさをもっとも引き出してくれる塗料である。
日本の漆工は蒔絵、螺鈿、など多彩な技法、多様な素材で他の追随を許さない。創意工夫をかさねてきた先人に感謝あるのみだ。
デザインの要素としての和を意識したことはないが日本に生まれ、育って、当然だが和の形、色、の影響を受けている。
以前、ある外国人に私のベンチの笠木が日本刀に似ていると指摘されたことがあった。また神社の鳥居を思い出すと言われたこともあった。やはり知らず知らずのうちにインプットされているのだろう。グローバリゼーションの時代に生きる木工家として、伝統的な形や素材を大事にしつつ、新しい世界や価値観を提示する仕事ができればと思っている。

平和の椅子　座板　栃　背、脚
ヤマザクラ　拭漆仕上げ

小椅子　ヤマザクラ
拭漆仕上げ

ベンチ　座板　栃　背、脚
マカバ　拭漆仕上げ

観光立県としての和歌山

宮本雅之
（宮本建築設計事務所）

和歌山城は、元和5年(1619)、徳川家康の第十子徳川頼宣が55万5千石を領して入城した時代、和歌山市のほぼ中心部に位置し、城の廻りは、お堀と広い道路に囲まれている。
お城の北側は、和歌山市役所、高層ホテル等の商業施設、南側は黒川紀章氏の設計された県立美術館、そして西側は大阪と紀南を継ぐ、国道24号線と42号線。

現在、町作り等の賑いが謳われている中、特に城の北東は和歌山市の中心商業地域として、活性化を図ろうとしている。残念ながら、もう一歩進んでいない状態である。
この和歌山城を中心に観光名所としてアピールしようとしているが、まず観光客がお城に登った後、この周辺を歩いている人は少ない。
もちろん、城内には、「もみじ谷」、公園、桜の名所等がある。

しかし、城内を出て、お城の廻りを歩き、お土産など売るお店、観光客がたむろして楽しめる場がないのである。

お城南西側の国道と城・石垣部分には、一般的な建物があり、城とは何の関係も無いものがある。私自身、せめてこの場所でも土産物売場、小さな展示場、オープンなカフェテラス等、観光客と地元の人々との交流の場があれば、と感じている。
国道に面しているがゆえに、数多くの人々が車等でこの場所を見、コマーシャルベースに活用出来るのではないか。

和歌山市内にはさほど観光名所はない。
お城との関連で観光客が和歌山市での時を過ごせ、和歌山県の観光の第一歩として、意識的に、町づくりをしてこそ紀伊半島へも足が伸びる。
観光立県は、和歌山城から始まる。もっと、アピールできる要素があるかも。

和歌山城

和歌山城東面お堀

和歌山城、北西角

和歌山城南西面、右側に県立美術館。国道24号線、42号線の合流地点
この部分に小さな展示場等を

和歌山城南側道路、右側に県立美術館

和歌山市駅
久保町駅
和歌山駅
田中口駅
南海和歌山港線
南海貴志川線
JR和歌山線（きのくに線）
大阪へ
紀ノ川大橋
河西橋
大門川
市堀川
和歌川
北大通り
本町通り
城北通り
けやき大通り
三年坂通り
中央通り
寺町通り
水門筋
大浦街道
大橋
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
15
16
17
43

空堀商店街界隈
長屋再生プロジェクト見学と忘年会

瀧川嘉彦
（瀧川建築デザイン事務所）

担当世話人：嶋崎真二、瀧川嘉彦

今年の忘年会は「空堀界隈で飲む」と題して空堀商店街界隈長屋再生プロジェクトを手がけられている六波羅真研究室の六波羅代表のご協力でプロジェクトの現場の見学と忘年会を開催させていただきました。

当日は天候にも恵まれ見学会には28名、忘年会には27名と多くの方にご参加いただきました。空堀に訪れてまず感じたのはこんな都会の真ん中に昔のままの街が残っていたのかということでした。幹線道路沿いは大きなビルやマンションが立ち並んでいますが一歩中に入ると昔の長屋や石畳があちらこちらに残っています。六波羅氏はこの街に事務所を構えたことがきっかけで長屋の再生やまちづくりに関わることになったようですがこの街の魅力が六波羅氏を惹きつけたことは十分理解できます。見学の最初の建物は「惣」と名づけられた物販店やカフェが入った長屋を再生したテナントです。このプロジェクトは長屋が取り壊されて駐車場にされようとしていたときに六波羅氏がたまたま通りかかったことから始まったそうです。所有者を説得して自分たちでテナントも探して駐車場よりも利益が出るということで所有者を説得したそうです。このときに自分たちで物件を借り上げてテナントに貸すサブリースという手法が始まったということです。私たち建築家はなかなか自分が事業主になって運営まで行うということはないですが、ここまで責任を持ってやっているからこそ所有者を説得できたのだと思います。その後、空堀商店街を通り直木賞で有名な作家の直木三十五記念館、長屋のリフォーム現場をめぐり「錬」と名づけられた大きなお屋敷を六波羅氏が再生したテナントに戻り、その中で忘年会を行いました。六波羅氏の事務所もこの中にあり、まさに長屋再生プロジェクトの拠点となっているところです。忘年会は昔懐かしいお座敷で家庭的でおいしい料理をいただきながら和やかな雰囲気で行われました。再度、六波羅氏には登場いただき、地域に新しく入ってきた人と昔から住んでいる人との融和の難しさや商店街の人に協力してもらって街づくりを行うことの難しさなどのお話もお聞きしましたが、六波羅氏の情熱が地域の人々を引っ張っているように感じました。普通の忘年会にはない面白い会になったように思います。

会場となった御屋敷再生複合ショップ「練」

メンバー集合、六波羅氏を紹介

六波羅氏と空堀を歩く

「練」に戻り、忘年会が始まる

新入会員紹介

京都府	玉置　順	玉置アトリエ	大阪府	中川　千裕	（株）東畑建築事務所
京都府	吉田　裕枝	ミラボ	大阪府	福田　哲也	福田哲也建築設計事務所
大阪府	上村　晋	（株）松田平田設計	大阪府	松浪　光倫	松浪光倫建築計画室
大阪府	奥　貴人	（株）安井建築設計事務所	大阪府	吉田　節雄	アートプラン
大阪府	高田　英治	（株）安井建築設計事務所	大阪府	渡辺　猛	（株）佐藤総合計画

編　集　後　記

2008年弥生。各地で桜開花の便りが聞こえてきています。

昨年6月20日建築基準法一部改正が施行されました。改正内容を周知していただくための講習会が幾多と開催されました。みなさん、一度は、受講されましたでしょうか。約9ヶ月が経過し、「厳格な審査」、「構造計算適合性判定」、「軽微な変更」、「あらかじめの検討」等に関する取り扱いについて、円滑化を考慮したガイドライン等が策定されていますが、申請者側も審査側も徐々には、慣れてはきているものの、まだまだ、課題が残されている現状です。「建築家って」という本をご存知ですか。本書は、JIA創設より20年間のさまざまな活動を通じて、建築家の役割や責任を、広く市民の方々に知っていただきたいと思い刊行されました。会員の方々は、本書の内容に恥じない行動をしていただきたいと考えます。

身近に、風邪や花粉症で苦しまれている方を見受けます。季節の変わり目、ご健康にご自愛ください。

（広報副委員長　小池啓夫）

広　報　委　員　会

委 員 長　小南一郎（大阪）
副委員長　小池啓夫（大阪）
委　　員　一尾晋示（大阪）　井上　守（大阪）　大江一夫（兵庫）　太田恭司（大阪）
木戸口浩之（京都）　佐藤洋司（大阪）　澤村昌彦（大阪）　佐々木純一（大阪）
柴田敬四郎（奈良）　内藤　正（滋賀）　西濱浩次（住宅部会長）
橋本雅史（和歌山）　森崎輝行（兵庫）　横関正人（大阪）
事 務 局　穴井宏樹　木田明生　緒方英輔
発 行 日　２００８年３月２８日（冬号）
発 行 人　吉羽逸郎
発　　行　社団法人　日本建築家協会近畿支部
〒541-0051
大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館　TEL06-6229-3371　FAX06-6229-3374
ホームページ　http://www.jia.or.jp/kinki
メールアドレス　jia@bc.wakwak.com

表　　紙　「無題」（益田治子）